

柔道ルネッサンス活動意識調査 ～2010年柔道ルネッサンスフォーラム参加者を対象に～

山田 利彦¹⁾, 金丸 雄介¹⁾, 石井 孝法²⁾, 福見 友子²⁾, 上水 研一朗³⁾, 金野 潤⁴⁾, 柏崎 克彦⁵⁾

了徳寺大学・教養教育センター¹⁾

了徳寺学園²⁾

東海大学・体育学部³⁾

日本大学・文理学部⁴⁾

国際武道大学・体育学部⁵⁾

要旨

本研究は2001年から2011年の間、講道館と全日本柔道連盟との合同プロジェクトとして行われた「柔道ルネッサンス」について、2010年のルネッサンスフォーラム参加者に対してアンケート調査を行い、その認知度や効果、必要性等を把握し、今後の柔道界が目指すべき方向性について示唆を得ることを目的とした。選手や会場使用のマナーについては改善に向かっていることが示唆される結果であったが、応援者のマナー、強化選手及び強化指導者のマナーについては、更なる改善が望まれる結果であった。柔道選手及び柔道指導者のマナーについて他競技と比べた場合、どちらでもない、あまり良くない、とする回答の合計が6割近くになり、改善の必要性がうかがえた。柔道ルネッサンスにより、柔道に対する意識は9割の者が良くなった、まあ良くなったととらえており、柔道界にとって非常に有益な活動として認識されていた。活動の継続については、100%の者が必要であると認識しており、今後、柔道ルネッサンスの復活、或いはそれに変わる活動が行われることが強く望まれる。

キーワード：柔道、ルネッサンス、ルネッサンスフォーラム、マナー

A Survey on Consciousness of Judo Renaissance Project: A Case study of the Participants in the 2010 Judo Renaissance Forum

Toshihiko Yamada¹⁾, Yusuke Kanamaru¹⁾, Takanori Ishii²⁾, Tomoko Fukumi²⁾,

Kenichiro Agemizu³⁾, Jun Konno⁴⁾, Katsuhiko Kashiwazaki⁵⁾

Center of Liberal Arts Education, Ryotokuji University¹⁾

Ryotokuji Medical College²⁾

Department of Physical Education, Tokai University³⁾

Department of Humanities & Sciences, Nihon University⁴⁾

Department of Physical Education, International Budo University⁵⁾

Abstract

The purpose of this survey is to obtain a direction for Japanese Judo based on information collated from opinion surveys from the Judo Renaissance Project which was a joint project of Kodokan and the All Japan

Judo Federation from 2001 through 2011. The questionnaire was distributed to the Renaissance Forum participants in 2010, in order to grasp its recognition, effects, and necessities of and for Japanese Judo. Although the survey shows the manners of participants and hall use have improved, further improvements are desired regarding the manners of supporters, national team athletes and coaches. When compared with other athletes the manners of judo players and coaches need to be improved. 90 percent of the participants felt the images of Judo has improved as a result of the Judo Renaissance. All the participants, therefore, thought it necessary to resume the activity of the Judo Renaissance or, alternatively, starting another activity of the same kind for the future of Japanese Judo.

Keywords : Judo, Renaissance, Renaissance Forum, Manner

I. はじめに

2013年1月より次々と明らかになった全日本女子監督による選手への暴力問題¹⁾²⁾, 助成金の不正受給問題²⁾³⁾などを通して, 全日本柔道連盟の組織, 運営のあり方のみならず, 柔道界自体の存在意義までもが問われる事態にまでに発展した. このことは柔道を志す者の一人として, 非常に残念であると同時に, 改めて今後の柔道界を大きく進歩・発展させるために, 何が必要かということ熟慮する必要性を強く感じた. しかしながらこうした現状の元となる問題を柔道界としても, 放置してきたわけではなく, 2001年から2011年までの10年間, 講道館と全日本柔道連盟との合同プロジェクトとして「柔道ルネッサンス」⁴⁾をたち上げ, 取り組んできた. 残念ながら前全日本柔道連盟会長である上村春樹氏の判断の下, 2011年にこのプロジェクトは終了となったが, 競技面へ過度に傾注した柔道を自省し, 嘉納治五郎師範が理想とした「柔道を通じての人間教育」, ひいてはその修行の究極の目的である「己を完成して, 世を補益する」ことを目指した⁵⁾ この活動によって, 柔道界へのポジティブな効果や変化が得られたものと思われる. そこで, 改めて柔道ルネッサンスの活動についてのイメージやその効果に関するアンケート調査を実施し, 今後の日本柔道界の立て直しに向けての示唆を得ることを目的として, 本研究を行った.

II. 目的

本研究は, 柔道ルネッサンス活動の認知・浸透度, そしてそれぞれの取り組みに関する実態を把握すると共に, 効果的な活動内容を分析し, 加えてその効果についてたずねることにより, 今後の柔道界が目指すべき方向性について示唆を得ることを目的とする. 先ずその第一段階として, 各都道府県を代表しての柔道ルネッサンスフォーラム参加者の調査を行い, 実際に柔道ルネッサンスに関わっている指導者の意識を把握し, 今後集計を行う各部門の指導者たちとの比較検討を行うための指標にも活用する.

III. 方法

1. 対象

各都道府県より推薦を受けた1名ないし2名の代表者, 総勢57名の柔道ルネッサンスフォーラム参加者の内, 55名よりの回答を得た. 回答者の内訳は男性50名, 女性5名, 平均年齢 52.1 ± 11.3 歳, 平均柔道歴 39.9 ± 10.4 年, 平均段位 5.8 ± 1.2 段であった.

2 調査方法

1) 調査日

2010年5月15日 講道館での柔道ルネッサンスフォーラムにて

2) 質問紙による調査項目

- (1) 柔道ルネッサンスの内容を理解していますか
- (2) 柔道ルネッサンスは「嘉納治五郎師範が唱えた柔道の原点に戻る」ことを基本としてさまざまな活動を行っていますが、ご存知でしたか
- (3) 柔道ルネッサンスで行ってきた下記の活動であなたがご存知のものに○をつけてください
- (4) 柔道ルネッサンスに関するスピーチについてどう思いますか
- (5) 柔道ルネッサンスに関する横断幕（会場等に掲示）についてどう思いますか
- (6) 柔道ルネッサンスにあなたは積極的に取り組んでいますか
- (7) 柔道ルネッサンスによって選手のマナーは変わりましたか
- (8) 柔道ルネッサンスによって観客の応援マナーは変わりましたか
- (9) 柔道ルネッサンスによって大会会場の使用マナーは変わりましたか
- (10) 柔道ルネッサンスによって柔道界は良い変化をしたと思いますか
- (11) 柔道ルネッサンスによって強化選手のマナーは変わりましたか
- (12) 柔道ルネッサンスによって強化指導者のマナーは変わりましたか
- (13) 一般的に柔道選手のマナーは他の競技の選手たちと比べて良いと思いますか
- (14) 一般的に柔道指導者のマナーは他の競技の指導者たちと比べて良いと思いますか
- (15) 柔道ルネッサンスは柔道界に十分浸透していると思いますか
- (16) 柔道ルネッサンスによってあなたの柔道に対する意識は良くなりましたか
- (17) 柔道ルネッサンスは今後も継続していく必要があると思いますか

自由記述 柔道ルネッサンスについてご意見・ご質問・ご要望等がございましたら自由に記載ください。

3) 統計分析

単純集計を行った。

IV. 結果と考察

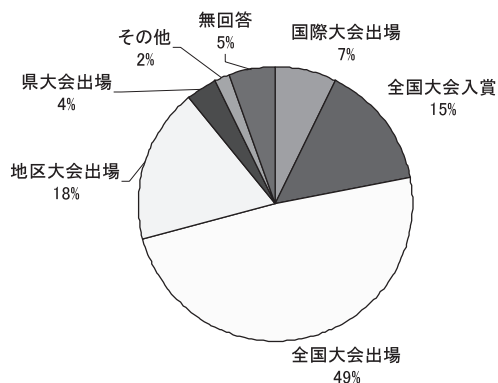


図1. 競技歴について

アンケート対象者の競技歴に関しては全国大会出場レベルが49%と約半数を占め、それ以上の競技歴(全国大会入賞15%、国際大会出場7%)を持つ者を含めると7割を超え、比較的競技歴の高い対象群であった(図1)。

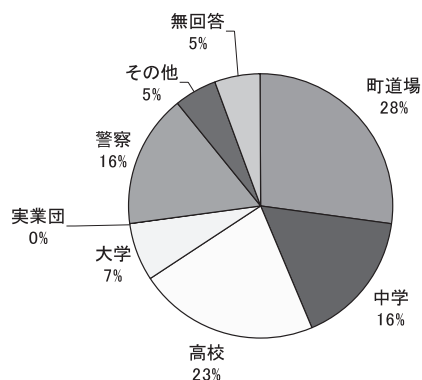


図2 指導状況について

指導状況に関しては町道場での指導者が28%，ついで高校23%，中学及び警察が16%，大学7%，その他，無回答がそれぞれ3.5%であった(図2).

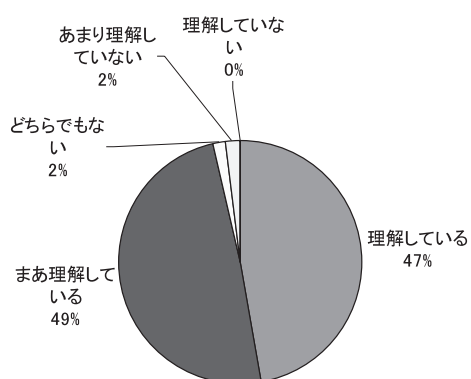


図3. 柔道ルネッサンスの内容の理解

各県を代表してフォーラムに参加していることも有り，柔道ルネッサンスの内容について「理解している」47%，「まあ理解している」49%を合わせると9割以上となり，内容の理解度は高いと考えられる(図3).

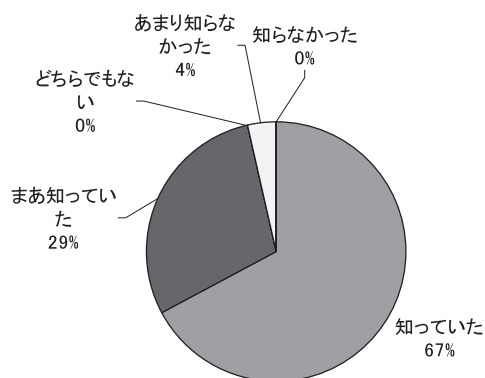


図4. 活動の基本理念についての認識

柔道ルネッサンスは「嘉納治五郎師範が唱えた柔道の原点に戻る」ことを基本として活動を行っている事について，「知っていた」67%，「まあ知っていた」29%と合わせて96%が認識していると回答しており，基本理念は浸透していると考えられる(図4).

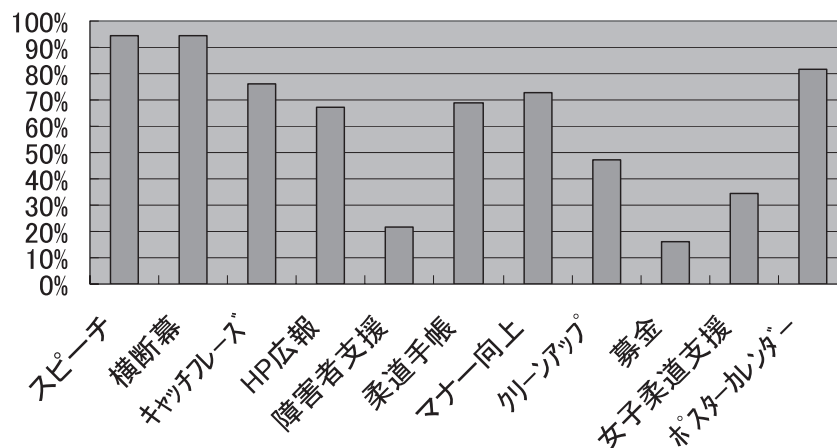


図5. 活動の認識度

柔道ルネッサンスで行ってきた活動の認識度については、スピーチ(95%)、横断幕の掲示(95%)、ポスター・カレンダーの作成(82%)、キャッチフレーズの募集(76%)、マナー向上の啓発(73%)などは7割以上の認識度であったが、逆に募金(16%)、障害者柔道の支援(22%)、女子柔道支援(35%)等については開催頻度や直接関連する機会が少ない事などもあり、認識度は4割に満たない結果であった(図5).

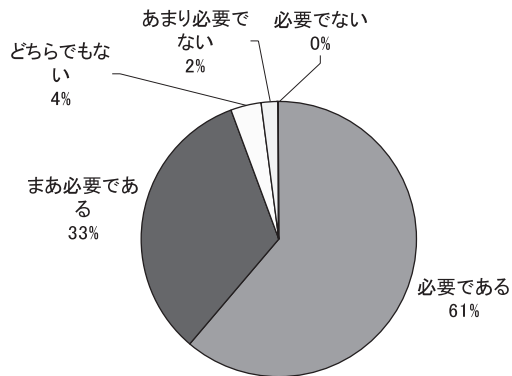


図6. スピーチについて

大会会場等で行われる柔道ルネッサンスに関連したスピーチについては、「必要である」61%、「まあ必要である」33%とその必要性を認識している割合が9割を越える結果であり、必要な活動として認識されている事がうかがえる結果であった(図6).

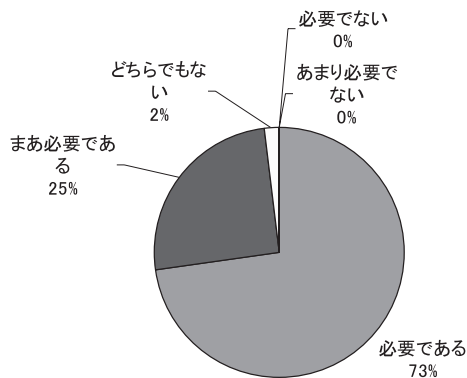


図7. 横断幕について

会場等に掲示してあるルネッサンスに関する横断幕についても、1名の「どちらでもない」という回答を除いて、「必要である」73%、「まあ必要である」25%と、ほぼ全ての者がその必要性を認識しているという結果であった(図7).

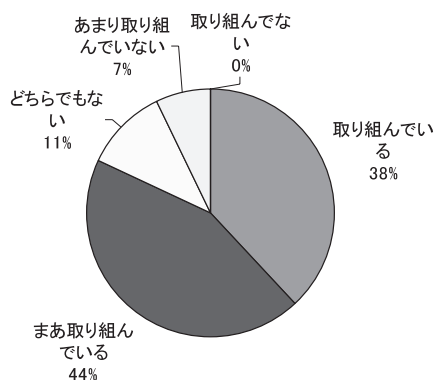


図8. 積極的に取り組んでいるか

柔道ルネッサンスに積極的に取り組んでいるかについては、対象者が各都道府県を代表してフォーラムに参加していることから積極的に「取り組んでいる」38%、「まあ取り組んでいる」44%で8割を超えるものであった。しかしながら11%は「どちらでもない」、7%は「あまり取り組んでいない」との回答で、回答者の立場から勘案すると改善が望まれる結果とも考えられる(図8).

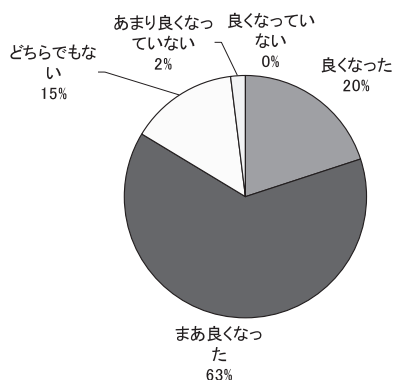


図9. 選手のマナーについて

柔道ルネッサンスによって選手のマナーは変わったかについては、「良くなった」20%、「まあ良くなった」63%と、選手のマナーが改善に向かっているイメージを受けていることを示唆する結果であった(図9).

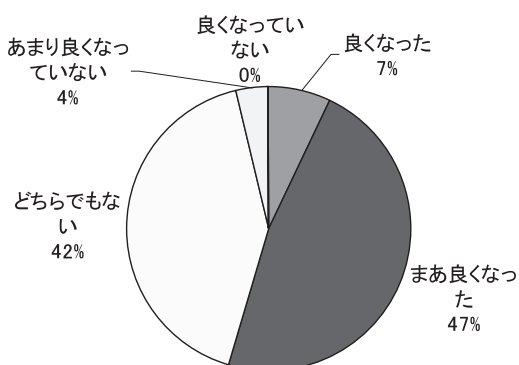


図10. 観客の応援マナーについて

観客の応援マナーについては、「良くなった」47%、「まあ良くなった」42%の肯定的な回答が合計で半数を超えたものの、「どちらでもない」との回答が4割程度有り、応援マナーについては今後も引き続き、改善していく必要があるものと思われる(図10).

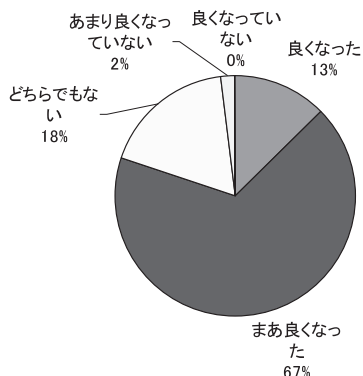


図11. 大会会場使用マナーについて

大会会場の使用マナーについては、「良くなった」13%、「まあ良くなった」67%の回答で8割を占めており、良い影響が徐々に表れていることを示唆する結果であった(図11).

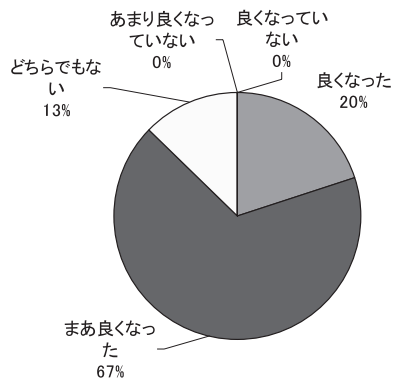


図12. 柔道界は良い変化をしたかについて

柔道ルネッサンスにより、柔道界は良い変化をしたかについては、「良くなった」20%、「まあ良くなった」67%の回答で9割近くを占めており、ポジティブな影響を与えていることが示唆されている(図12).

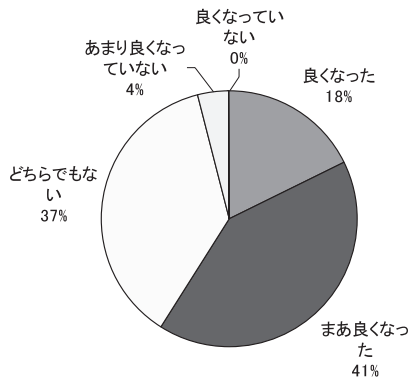


図13. 強化選手のマナーについて

強化選手のマナーについては「どちらでもない」の回答が4割近くを占めており、これは強化選手との交流がないため、詳しくは分からないとの意見も反映されての結果であると考えられるものの、その現状についても改善の余地があることも推察される(図13)。

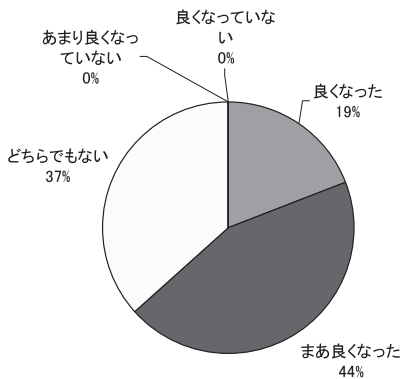


図14. 強化指導者のマナーについて

強化指導者のマナーについては選手のそれよりも若干肯定的な値であった。これも前問同様、強化指導者との交流が少ないことも考慮する必要があるが、「どちらでもない」の回答も4割ほどあり、ルネッサンスの効果が浸透しきっているとはいえない結果であると思われる(図14)。

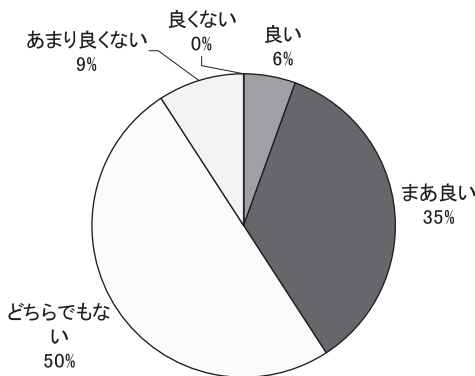


図15. 柔道選手のマナーは他競技と比べて

一般的に柔道選手のマナーは他の競技の選手たちと比べて良いと思いますかの間について、「どちらでもない」50%、「あまり良くない」9%の回答が6割近くあり、マナーについて他競技に比べて誇れる状態ではないことが推察される。なかなか比べ辛い設問ではあるが、柔道を志す者のマナーについて胸を張って良いと言える状況ではないことは確かであり、今後、改善すべき点であると思われる(図15)。

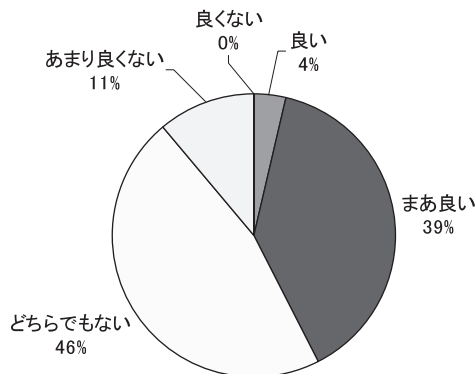


図16. 柔道指導者のマナーは他競技に比べて

一般的に柔道指導者のマナーは他の競技の指導者たちと比べて良いと思いますかについては柔道選手のマナー同様、「どちらでもない」46%、「あまり良くない」11%と6割近い回答があり、指導者のマナーについても他競技に比べて誇れる状態ではないことが推察される。指導者自身の回答としてこうした結果であることは、自分達の状況を認識しつつも改善できていないことが伺える結果であると考えられる(図16)。

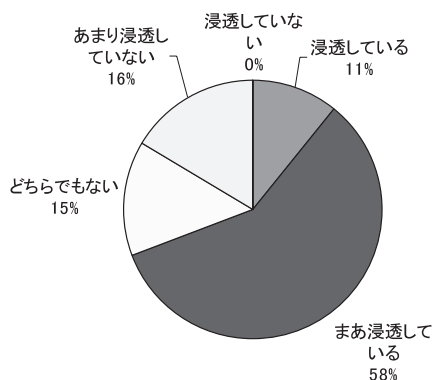


図17. ルネッサンス活動は浸透しているか

柔道ルネッサンスは柔道界に十分浸透していると思いますかについては、「浸透している」11%、「まあ浸透している」58%を合わせると7割近くを占め、徐々に浸透していることをうかがわせる結果であった(図17).

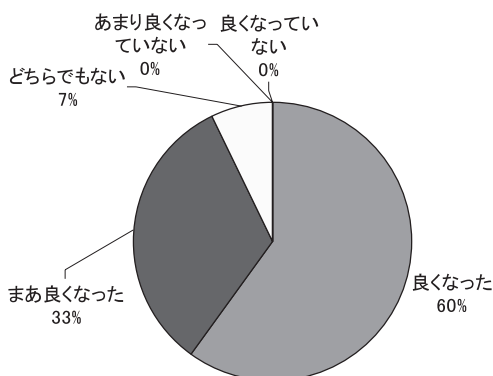


図18. ルネッサンスによる柔道に対する意識変化

ルネッサンス活動により、柔道に対する意識が「良くなった」との回答が6割を占め、「まあ良くなった」33%を含めて9割以上が肯定的な変化を感じているという結果であり、この活動の意義を実感していることをうかがわせる結果となった(図18).

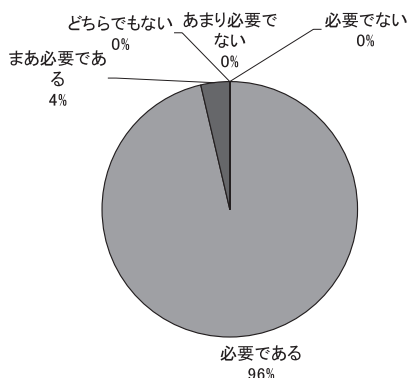


図19. ルネッサンスの今後の継続について

柔道ルネッサンスは今後も継続していく必要があると思いますかとの間に関して、「必要がある」と回答した者が96%を占め、「まあ必要である」4%を合わせて100%の回答者が今後も活動を続ける必要性を感じているという結果となった(図19).

自由記述 柔道ルネッサンスについて意見・質問・要望等

- ・フォーラムを継続して欲しい。定期的を開催して欲しい。ルネッサンス活動は1つの区切りと聞いているが継続して欲しい。
- ・強化選手等については関わりがないので回答が難しい。
- ・いかつい人が多いので、ファッションに気をつけるべき。ひげなどの身だしなみをさわやかに。
- ・フォーラムについて、年ごとにテーマや重点課題を決めて取り組むべきでは。
- ・フォーラムのDVDを作成し、普及の為に活用して欲しい。
- ・サッカーや野球に対抗できるよう、子を持つ母親にやらせたいと思わせることが必要。
- ・競技者のみならず保護者も教育することが必要。
- ・フォーラムは土日開催にした方が参加しやすい。

- ・ポスターやカレンダーをもっと配りたいので、有料でもよいから対応して欲しい。4～3月分にしては、また早い送付を希望。
- ・自分の地区でもアンケートを行ってみたい。
- ・メディア等を活用してさらにアピールしては、
- ・柔道界だけの活動ではなく、文科省、日体協と協力して、さらに広げていっては、道徳教育となるので、全般的に参加しているフォーラムについての要望である、定期開催や更なる充実を願う声が多く見られた。また柔道に携わる者に対しての教育やマナーの向上についても意見が述べられており、ルネッサンス活動の必要性を感じさせる内容の意見が見られた。

V. まとめ

本研究では、2010年の柔道ルネッサンスフォーラム参加者に対してアンケート調査を行い、2001年より10年間行われた柔道ルネッサンスについての認知・浸透度、取り組実態の状況を把握し、効果的な活動内容を分析することにより、今後の柔道界が目指すべき方向性について示唆を得ることを目的として実施した。

1. 「柔道ルネッサンスの内容や基本理念」については共に9割以上の理解が得られていた。
2. 具体的な活動の認識度については、「スピーチ」、「横断幕の掲示」、「ポスター・カレンダーの作成」、「キャッチフレーズの募集」、「マナー向上の啓発」などは7割以上の認識度であったが、逆に「募金」、「障害者柔道の支援」、「女子柔道支援」等については、4割に満たない結果であった。
3. 「選手のマナー」、「大会会場使用のマナー」については改善に向かっていることが示唆される結果であったが、「応援者のマナー」、「強化選手、強化指導者のマナー」については、更なる改善が望まれる結果であった。
4. 「柔道選手及び柔道指導者のマナー」について他競技と比べた場合、どちらでもない、あまり良くない、を合わせると共に6割近くになり、改善が必要との認識を持っている事がうかがえる結果であった。
5. 柔道ルネッサンスにより、柔道に対する意識は9割の者が良くなった、まあ良くなったととらえており、柔道界にとって非常に有益な活動としてとらえられていた。
6. 柔道ルネッサンスの継続については、100%の者が必要であるととらえており、また自由記述においても同様の意見が見られ、その重要性と継続することの必要性が強くうかがえた。

柔道ルネッサンスは、2010年の時点で柔道界に浸透してきており、様々なプラスの効果をもたらしていることがうかがえる結果であった。また、その必要性も強く認識されていることから、今後、柔道ルネッサンスの復活、或いはそれに変わる活動が行われることが強く望まれる。今回のアンケートは、2010年の柔道フォーラム参加者を対象にしたものであったが、引き続き、各修行段階における指導者に対して行ったアンケート調査の集計を分析し、更に傾向を明らかにしていきたい。

VI. 文献

- 1) 山口香 (2013) 日本柔道の論点, イースト新書, 111-116
- 2) 松原隆一郎 (2013) 武道は教育でありうるか, イースト新書, 46-64
- 3) 木村秀和 (2013) [柔道改革] 振興センター助成金問題中間報告を受けて, 近代柔道, 第35巻, 6号
- 4) 講道館 (2001) 柔道ルネッサンスとは http://www.kodokan.org/j_renaissance/
- 5) 山田利彦 (2010) 平成22年度「柔道ルネッサンスフォーラム」報告, 講道館柔道.VOL81, NO.7, 69-72

(平成25年11月28日稿)

査読終了年月日 平成25年12月6日